

第 11 回 200 年の森づくりデザイン策定実行委員会

日 時：平成 24 年 5 月 7 日（月） 14:00～16:00

場 所：前橋市市民活動支援センター 会議室（前橋プラザ元気 2 1/3 F）

参加予定者：大松 稔（NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会）、田中洋助（ぐんま森林インストラクター会）、菊川照英（NPO 法人フォレストぐんま 2 1）、高橋正直（群馬県渋川森林事務所長）、田村 宏（前橋市農政部長）、青木 孝行（赤城南麓森林組合）、岡田 茂（サンデンファシリティ株式会社）、長島 成和（株式会社興林）、小林善紀（事務局）

議 事 録

平成 24 年度実行委員会メンバー 紹介

議 題

1、前回（第 10 回）議事録によるレビュー。

第 10 回議事録を資料として配布し、事務局による朗読説明を行い、了承された。

2、平成 23 年度日本財団助成事業「松枯れ林地再生プロジェクト」 助成事業完了報告書説明

助成事業完了報告書コピーを資料として配布し、了承を得た

3、平成 24 年度日本財団助成事業「松枯れ林地再生プロジェクト 200 年の森づくりデザイン策定事業」採択内容の説明

2012 年度 助成金交付決定のおしらせと 2012 年度 事業計画概容を資料として配布し、事務局より説明を加え、了承を得た。

4、今年度事業について

、200 年の森づくりデザイン策定について（5～6 回の実行委員会等を経て）
方向性の共有化と時系列計画立案

座長が本事業に対する取り組み姿勢の話を熱く語られ、

- ・ 進行中の松枯れ被害の拡大は赤城地域の森づくりにとって、大きな問題である。
- ・ 人工林率、保安林率が非常に高い赤城地域で松枯れ林地再生プロジェクトに取り組んでいくことは多いに意義あることである。
- ・ 民有林所有者の森づくり意欲の減退している今、2010 年度の松枯れ林地現況調査報告書、2011 年度 赤城地域の森づくりガイドおよび赤城地域の土壌調査報告書に続いて、2012 年度に 200 年の森づくりランドデザイン作成に取り組み提案することによって、民有林所有者の森づくり意欲の回復と森づくりの実践に役立てていきたい。
- ・ 前橋市森林整備計画との整合性も考慮にいれていくべきである。
- ・ 2010 年度の松枯れ林地現況調査報告書、2011 年度 赤城地域の森づくりガイドおよび赤城地域の土壌調査報告書、2012 年度に 200 年の森づくりランドデザイン 以上を合冊等を試みる必要はないだろうか？ このような資料は他には無い、後世に残すべきものではないだろうか？

長島委員より

- ・ 環境省で作成した 環境植生図（赤城地域の）の入手 小林が群馬県自然環境連盟事務局長吉田氏を通して里見、須藤両氏にアプローチすることとする。

- ・ 県で作成した 土壌図（赤城地域の）の入手 大松座長が県環境森林部より入手を試みる。
以上から始める提案があり、認識が共有された。

田中委員より

- ・ 今後の事業として、200年の森づくりデザインを下にしたモデル森づくりに着手したらどうか？
- ・ 民有林を対象にした企業参加、ボランティア参加の森づくり事例は今までに無い、赤城自然塾として森林所有者と企業、ボランティアの間でコーディネートしていくことは必要である。
- ・ そのためにも200年の森づくりデザインが説明しやすい画像入りのDVDを作成する必要がある。

事務局として

- ・ 今年度前半にDVDの作成に取り組みたい。
- ・ 後半、DVD作成の延長作業として、200年の森づくりデザイン策定につなげて行きたい。

田村委員より

- ・ 新任の山本市長は赤城地域の森づくりに理解があり、良い提案であれば積極的に支援していく意向である。

青木委員より

- ・ 最新の赤城地域松枯れ被害現況図を作成、提示する。

、上下流域市民による森づくり実践（第10回桐生・新宿森と水による交流）

5月19日（土） 桐生市梅田町柄杓山、梅田清流広場

チラシにより説明し、了承を得た。

、企業市民と森林ボランティア、下流域市民協働の放置林再生の実践

10月6日（土） サンデンフォレスト隣接室沢交流の森

下流域市民（シブヤ大学等）参加による森づくりを実施することが了承された。

、前橋工業高校生徒による水源の森づくり実践

8月下旬 国立赤城青少年交流の家宿泊棟北側

6月に対象地の整備を行い、8月下旬に前橋工業高校生徒による水源の森づくり実践することを了承。

5、その他

特に無し

次回の日程

日 時：平成24年7月2日（月） 14：00～16：00

場 所：前橋市市民活動支援センター 会議室

以上